

風しん追加的対策の今後の実施方法について（案）資料 2

現状

- (1) 初年度（～2020年3月）は、1972年（昭和47年）4月2日から1979年（昭和54年）4月1日の間に生まれた男性（現在40～47歳）にクーポン券を配布。
- (2) これまで抗体検査の供給不足や医療機関への駆け込み等の混乱は生じていない。
一方で、抗体検査の受検状況を見ると、当初、見込んでいた受検者数（約330万人）よりも、現状は下回っている。

今後の実施方法

①2020年7月までに抗体検査480万人・予防接種100万人、②2022年3月までに抗体検査920万人・予防接種190万人の目標を前提とした場合、本対策の目標達成に向け、より多くの抗体検査の受検を促進する必要があることを踏まえ、以下の方針で実施する予定。

- (1) 今年度クーポン券を送付済みの方のうち、未使用の者に対して、抗体検査の受検等を再勧奨するとともに、今年度末で使用期限を迎えるクーポン券を翌年度以降も使用できるよう期限を延長する。
- (2) 本追加的対策の2年目（～2021年3月）分として、少なくとも約570万人にクーポン券を配布する。ただし、市区町村の希望に応じて、送付対象を拡大することも可能。
また、次年度当初から企業の健診の機会に抗体検査が実施されるよう、来年度分のクーポン券の送付をできる限り今年度内に実施することを市区町村に依頼する。

昭和54年4月1日生

昭和37年4月2日生

受診券の送付 約646万人（初年度分）

受診券の送付 約570万人※（次年度分）

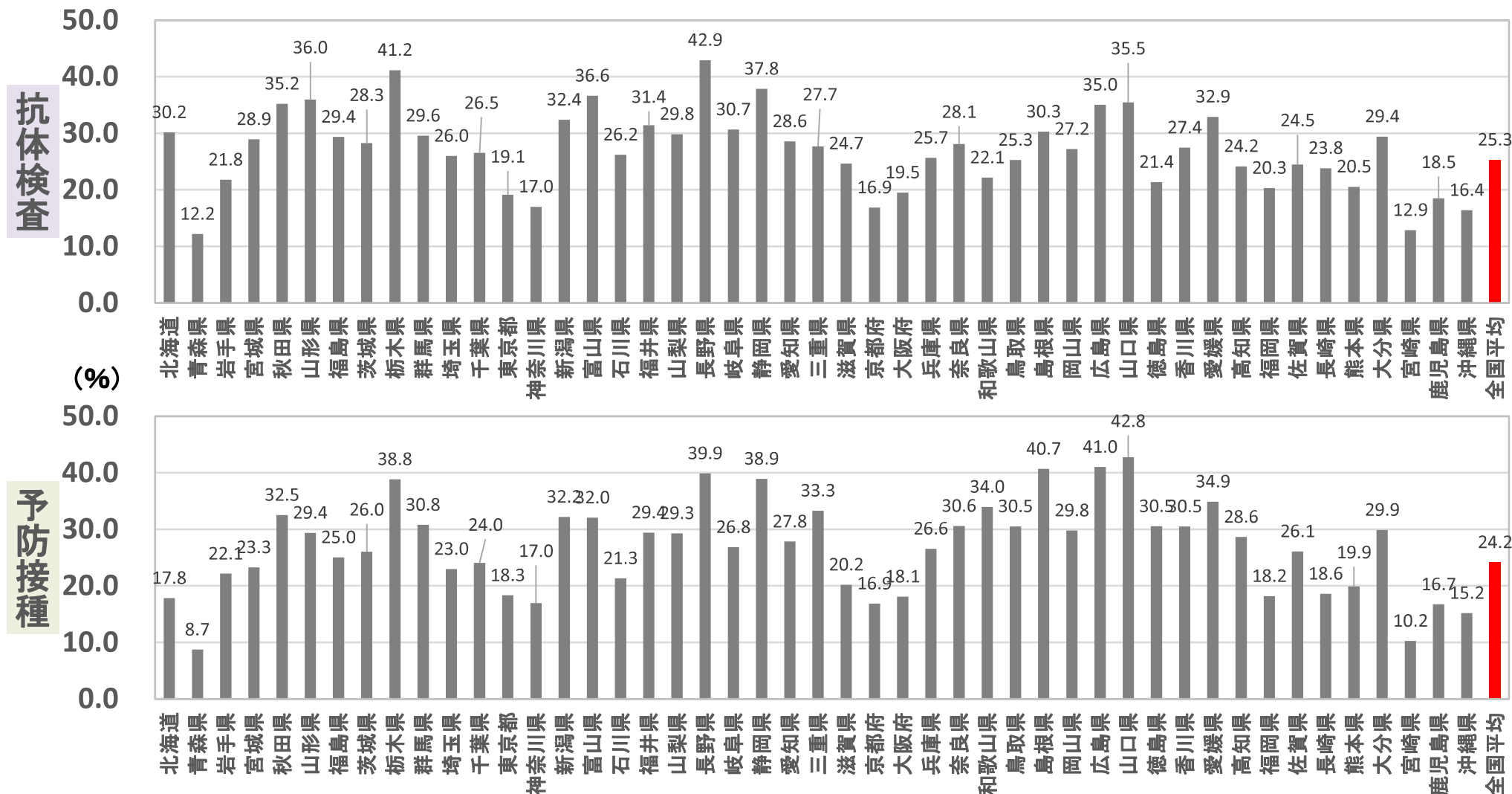
抗体検査の受検 約700万人（見込み）

予防接種の実施 約145万人（見込み）

※ 昭和41年4月2日～昭和47年4月1日に生まれた男性（現在48～53歳）相当。

都道府県別の進捗状況(4～9月実施状況)

進捗状況：今年度、抗体検査を受けることが見込まれる方(約330万人)又は定期接種を受けることが見込まれる方(約70万人)に対する本年7月末までの実績



抗体検査の進捗率＝抗体検査の実績数／(都道府県別40～47歳人口×51%※1)

予防接種の進捗率＝予防接種の実績数／(都道府県別40～47歳人口×51%※1×21%※2)

※集合契約を通じて実施した数と自治体が独自に実施した数との合計

※1 51%= 330万人/646万人 ※2 21%= 対象世代の抗体保有率から推計される陰性の割合の全国平均値